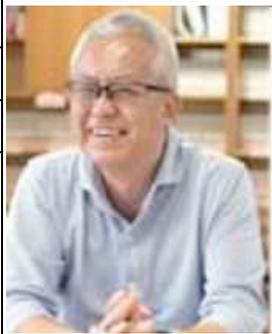


大学院教育学研究科

所属・職位	大学院教育学研究科（教職大学院）・教授	
氏名	佐藤 晋治 (Sato Shinji)	
取得学位	修士（教育学），筑波大学，1995年3月修士（心身障害学），筑波大学，1997年3月	
SDGs目標	 	

研究分野	特別支援教育，心理臨床
------	-------------

研究キーワード	知的障害，発達障害，心理アセスメント，認知機能，機能分析，合理的配慮
---------	------------------------------------

研究内容	<p>知的障害や発達障害のある人の学校や地域での生活がより豊かなものとなるために，アセスメントに基づいた指導，支援計画の立案とその効果の検討について実践的に研究している。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 認知機能のアセスメントに基づいた指導・支援計画の検討 近年の認知能力検査は，CHC理論やPASS理論に基づいている。具体的には，ウエクスラーファミリー検査，DN-CAS，KABC-IIなどの検査結果をCHC理論やPASS理論に基づいて解釈し，障害のある人の得意な力を活用したり，不得意な力を補ったり配慮したりするような指導・支援計画を立案し，その効果について検討している。また，アセスメント結果のフィードバックが障害のある人の自己理解，自己実現につながるようなあり方についての検討も行っている。2. 行動の機能分析に基づいた指導・支援計画の検討 行動分析学の基本的な枠組みである三項随伴性（弁別刺激-反応型-強化子）によって行動の機能を理解し，その機能に応じた指導・支援計画を立案し，その効果について検討している。その際には，もっぱら障害のある人のスキル形成のみを重視するのではなく，そのスキルが生起するための環境調整や関係者への要請なども重視する「援助-援護-教授」のパラダイムも適用する。3. 根拠に基づいた合理的配慮の検討 合理的配慮が，診断名などから先験的に提供されるのではなく，障害のある人と彼らを取り巻く環境との相互作用から，活動・参加の促進要因や阻害要因を明確にした上で提供されるための必要条件とその効果について検討している。具体的には，ICF大分モデルによる合理的配慮の提供プロセスを検証し，より活用しやすいものへの調整・変更を進めている。
------	---

研究業績・アピールポイント	<p>根拠に基づいた合理的配慮の提供プロセス-ICF九州モデル（仮称）の開発と普及－ 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）（研究代表），2019年4月-2024年3月</p> <p>教育臨床の実際第2版：学校で行う心と発達へのトータルサポート 武内珠美，渡辺亘，佐藤晋治，溝口剛 編（担当：共著） ナカニシヤ出版，2018年5月</p> <p>日本版DN-CASの解釈と事例 佐藤百合子，佐藤 晋治（担当：分担執筆，範囲：事例11 学習の遅れから登校渋りを示した小学校6年生男児） 日本文化科学社，017年3月</p> <p>インクルーシブ教育ってどんな教育？ 青山新吾，赤坂真二，上條晴夫，川合紀宗，佐藤晋治，西川純，野口晃菜，涌井恵 著（担当：共著） 学事出版，2016年4月</p> <p>KABC-IIの基本的解釈と子ども理解：生活文脈におけるメカニズムの機能化のために 佐藤 晋治 K-ABCアセスメント研究，17，55-60，2015年8月</p>
---------------	---